

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

協議会名: 山梨県地域公共交通協議会

評価対象事業名: 陸上交通に係る地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
富士急バス株式会社 「河口湖駅～御殿場駅」	「河口湖駅～御殿場駅」を運行 ※車両減価償却費国庫補助適用	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を含めた交流人口への利用促進策を検討するにあたり、来訪者の動向を調査分析を行うためバスロケーションシステムなどを利用し、遅延情報等のデータ収集を始め、利用者の分布等のデータを組み合わせて、最適な運行時刻・便数等を解析する基盤作成に引き続き努めた。 利用者の動向を基に、企画乗車券の改修・集約化の検討を行った。 今後の需要把握に向け、データ収集の継続、および市町村との連携を図り路線維持の施策を行った。 	A 計画どおり事業は実施された。	<ul style="list-style-type: none"> 1%以上の収支率の改善の目標達成はできなかった。(R5:74.9%→R7:73.8%) (営業外収入・運送雑収の減少、車両更新・EVバス継続導入・待遇改善等によるコスト増加によるもの。) 従来より行ってきた乗り方教室等利用者拡大施策、ホームページの改修、バスロケーションシステムの修正および改修、企画乗車券の周知(デジタルチケット)等との相乗効果により、旅客の需要取り込みにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の需要状況の維持向上を図るため、関係者において、利用者の利便性向上、バス利用のきっかけ作り等の検討を進める。
富士急バス株式会社 「河口湖駅～市立病院・内野・平野～河口湖駅」	「河口湖駅～市立病院・内野・平野～河口湖駅」を運行 ※車両減価償却費国庫補助適用	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を含めた交流人口への利用促進策を検討するにあたり、来訪者の動向を調査分析を行うためバスロケーションシステムなどを利用し、遅延情報等のデータ収集を始め、利用者の分布等のデータを組み合わせて、最適な運行時刻・便数等を解析する基盤作成に引き続き努めた。 利用者の動向を基に、企画乗車券の改修・集約化の検討を行った。 今後の需要把握に向け、データ収集の継続、および市町村との連携を図り路線維持の施策を行った。 	A 計画どおり事業は実施された。	<ul style="list-style-type: none"> 1%以上の収支率の改善を図った(R5:59.5%→R7:73.4%) 従来より行ってきた乗り方教室等利用者拡大施策、ホームページの改修、バスロケーションシステムの修正および改修、企画乗車券の周知(デジタルチケット)等との相乗効果により、旅客の需要取り込みにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の需要状況の維持向上を図るため、関係者において、利用者の利便性向上、バス利用のきっかけ作り等の検討を進める。
富士急バス株式会社 「富士山駅～新富士駅」	「富士山駅～新富士駅」を運行 ※車両減価償却費国庫補助適用	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を含めた交流人口への利用促進策を検討するにあたり、来訪者の動向を調査分析を行うためバスロケーションシステムなどを利用し、遅延情報等のデータ収集を始め、利用者の分布等のデータを組み合わせて、最適な運行時刻・便数等を解析する基盤作成に引き続き努めた。 利用者の動向を基に、企画乗車券の改修・集約化の検討を行った。 今後の需要把握に向け、データ収集の継続、および市町村との連携を図り路線維持の施策を行った。 	A 計画どおり事業は実施された。	<ul style="list-style-type: none"> 1%以上の収支率の改善を図った(R5:51.2%→R7:69.1%) 従来より行ってきた乗り方教室等利用者拡大施策、ホームページの改修、バスロケーションシステムの修正および改修、企画乗車券の周知(デジタルチケット)等との相乗効果により、旅客の需要取り込みにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の需要状況の維持向上を図るため、関係者において、利用者の利便性向上、バス利用のきっかけ作り等の検討を進める。
富士急バス株式会社 「富士山駅～甲府駅」	「富士山駅～甲府駅」を運行 ※車両減価償却費国庫補助適用	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を含めた交流人口への利用促進策を検討するにあたり、来訪者の動向を調査分析を行うためバスロケーションシステムなどを利用し、遅延情報等のデータ収集を始め、利用者の分布等のデータを組み合わせて、最適な運行時刻・便数等を解析する基盤作成に引き続き努めた。 利用者の動向を基に、企画乗車券の改修・集約化の検討を行った。 今後の需要把握に向け、データ収集の継続、および市町村との連携を図り路線維持の施策を行った。 	A 計画どおり事業は実施された。	<ul style="list-style-type: none"> 1%以上の収支率の改善を図った(R5:62.8%→R7:70.1%) 従来より行ってきた乗り方教室等利用者拡大施策、ホームページの改修、バスロケーションシステムの修正および改修、企画乗車券の周知(デジタルチケット)等との相乗効果により、旅客の需要取り込みにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の需要状況の維持向上を図るため、関係者において、利用者の利便性向上、バス利用のきっかけ作り等の検討を進める。 旅客需要、運転士拘束時間等を踏まえた運行時間の検討